

第6回北海道水産海洋研究集会

北海道周辺海域における マイワシ資源の動向と その有効利用

2022年2月4日(金) 13:00~17:00

【ZoomによるWeb開催】

- 共催：道総研 水産研究本部
- コンピーナー
蛸谷幸司, 山口浩志, 有馬大地
(道総研中央水試)
- 志田 修 (道総研函館水試)
- 古市 生 (水産機構)
- 藤田瑞代 (道水産林務部)
- 石田一志 (三友冷蔵(株))

挨拶 木村伸吾 (水産海洋学会長) 木村 稔 (道総研水産研究本部)

講演 水産資源の総合的な管理に向けて - 道東沖のマイワシ資源を事例に -
東京海洋大学 学術研究院 海洋政策文化学部門 准教授 工藤貴史

話題

- ① マイワシ太平洋系群の資源変動と今後の動向
古市 生 (水産機構水産資源研)
- ② 道東海域におけるマイワシの来遊状況と漁獲物の特徴
山口浩志 (道総研中央水試) ・ 生方宏樹 (道総研釧路水試)
- ③ 道東海域におけるマイワシの餌環境の変化
有馬大地 (道総研中央水試)
- ④ 道産マイワシの急速冷凍を用いた生食対応商材
平島小太郎 (三友冷蔵(株))
- ⑤ 国内外における道産マイワシの消費拡大の取組 ~産地価格の向上を目指して~
藤田瑞代 (道水産経営課)
- ⑥ 道産マイワシの食用利用拡大を目指した高品質化技術開発
守谷圭介 (道総研釧路水試)

総合討論 志田 修 (道総研函館水試)



開催趣旨

本研究集会では、かつての道東海域におけるマイワシの消長にともなう漁獲物の利用体制の変化を俯瞰する。そして、気候変動に応じて数十年規模の増減を繰り返すマイワシの資源変動と今後の資源動向、道東海域における漁場形成と漁獲物の特徴に関する最新の知見を紹介する。また、資源の変動特性を踏まえて、資源の持続的な有効利用(漁業と加工利用)を図る上で必要な取り組みについて議論する。

●参加希望の方は 2022年1月28日(金)までに、①氏名 ②所属 を蛸谷 (ebitani-kohji@hro.or.jp) へご連絡下さい。



地域研究集会

第6回北海道水産海洋研究集会

－ 北海道周辺海域におけるマイワシ資源の動向とその有効利用 －

日 時：2022年2月4日（金）13:00～17:00

方 法：ZOOMによるWeb方式（参加希望の方は2022年1月28日迄に、①氏名、②所属を
蛸谷（ebitani-kohji@hro.or.jp）へご連絡ください。

共 催：道総研 水産研究本部

コンビーナー：蛸谷幸司、山口浩志、有馬大地（道総研中央水試）、志田 修（道総研函館水
試）、古市 生（水産機構）、藤田瑞代（道水産林務部）、石田一志（三友冷
蔵（株））

総合司会：蛸谷幸司（道総研中央水試）

挨拶：木村伸吾（水産海洋学会長） 13:00～13:05

木村 稔（道総研水産研究本部） 13:05～13:10

趣旨説明：蛸谷幸司（道総研中央水試） 13:10～13:15

座 長：高嶋孝寛（道総研中央水試）

講 演：

「水産資源の総合的な管理に向けて 一道東沖のマイワシ資源を事例に－」

東京海洋大学 学術研究院 海洋政策文化学部門

准教授 工藤貴史

13:15～14:00

話 題：

1. マイワシ太平洋系群の資源変動と今後の動向 14:00～14:20
古市 生（水産機構 水産資源研究所）
2. 道東海域におけるマイワシの来遊状況と漁獲物の特徴 14:20～14:40
山口浩志（道総研中央水試）・生方宏樹（道総研釧路水試）
3. 道東海域におけるマイワシの餌環境の変化 14:40～15:00
有馬大地（道総研中央水試）
－休 憩－ 15:00～15:10

座長：蛸谷幸司（道総研中央水試）

4. 道産マイワシの急速冷凍を用いた生食対応商材 15:10～15:30
平島小太郎（三友冷蔵（株））

5. 国内外における道産マイワシの消費拡大の取組
～産地価格の向上を目指して～ 15:30～15:50
藤田瑞代（道水産経営課）

6. 道産マイワシの食用利用拡大を目指した高品質化技術開発 15:50～15:50
守谷圭介（道総研釧路水試）

総合討論：志田 修（道総研函館水試）

16:10～17:00

開催趣旨：

北海道周辺海域はサンマやスルメイカなどの広域に回遊する多獲性浮魚類の好漁場として利用されてきた。近年、これらの魚種の漁獲が大きく減少する一方で、マイワシの漁獲量が増加しており、この資源をいかに有効に利用していくかが重要な課題となっている。マイワシは、1980年代に北海道東部太平洋海域を中心に100万トンを超える水揚げがあった。これにともない、釧路港に大量処理体制が構築されたが、1990年代はじめに資源の大幅な減少に伴って漁獲量も急激に減少した。そして、このような変化は地域の漁業ばかりでなく、加工利用業などにも大きな影響を与えた。本研究集会では、まず、かつての道東海域におけるマイワシの消長にともなう漁獲物の利用体制の変化を俯瞰する。そして、気候変動に応じて数十年規模の増減を繰り返すマイワシの資源変動と今後の資源動向、道東海域における漁場形成と漁獲物の特徴に関する最新の知見を紹介する。また、資源の変動特性を踏まえて、資源の持続的な有効利用（漁業と加工利用）を図る上で必要な取り組みについて議論する。